

ドラゴンフライズの公式戦で声援を送る認知症患者の支援者たち



## 認知症 正しく理解しよう

### 西区で集い 体験語る

#### ドラゴンフライズも協力公式戦招待

認知症への理解を深めるための集いが8日、広島市西区のこころホスピタル草津であった。市西区医師会の主催。バスケットボールBリーグ1部(B1)の広島ドラゴンフライズも協力し、当事者や家族、認知症サポーターたち約100人を公式戦に招待した。

(13面関連)

若年性認知症と診断された団体職員の木元聖子さん(53)たち2人が登壇。病気を知った時の不安や、希望を持って活動するようになった体験を語った。木元さんは支援者たちに向け「先

回りするのではなく、できなかった時に助けるくらいでいてほしい」と語った。一行は、広島サンプラザホールで越谷アルファーズ(埼玉)との試合も観戦。声援を送り、試合後にはコート内で記念撮影をした。同会は昨年度、認知症についての市民講座を開催。趣旨に賛同したドラフラが活動を支援した。同会の落久保裕之副会長は「『認知症になったら終わり』という偏見を払拭したかった。当事者の思いを大切に、今後も続けていきたい」と話した。

(仁科裕成)